

自治会紹介

南風原町内にある20の行政区について紹介します。
今回は新川自治会と与那覇自治会です。

新川自治会

住所:字新川148番地12 ☎889-0383

新川は南風原町の北に位置し、古都首里に隣接しています。県道241号宜野湾・南風原線が南北に走り、北には中北部への入口となる那覇インターチェンジ、地域の中央には那覇バス市内線の新川営業所があり、交通の要所となっています。また、県立公文書館や県立医療センター・子ども医療センター、県立精和病院・県医師会・県薬剤師会など県医療関係の集中している地域となっています。

新川は南風原町内では比較的歴史が浅く、地域としての成立は100年の歴史だと伝えられています。

新川コミュニティセンターは、平成18年に自治会事務所・舞台・ホール・和室・会議室・厨房・倉庫が完備された平屋建て総面積396㎡の近代的な建物として、県立公文書館の裏に位置し、地域のほぼ中央に建設されました。

区民が新川コミュニティセンターを利用して地域の活性化を図り、子どもから高齢者まで安全で安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。



南風原町の自治会で取り組んでいることをご紹介します

親睦・交流・スポーツ(体協)活動



住民の親睦・交流のために様々な行事が取り組まれています。子どもたちにとって今住んでいる所がふるさとです。楽しい思い出ができるよう各自治体で努力しています。



与那覇自治会

住所:字与那覇59番地 ☎889-2259

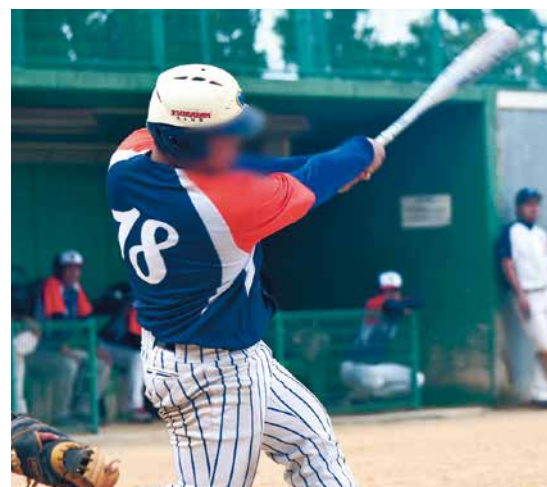
与那覇自治会は那覇市側から国道329号を与那原側に向かい、イオン南風原店さんを過ぎたあたりから、ジェフ与那原店さんの手前あたりまでの地域となっており南風原町では一番東側に位置します。

沖縄県で唯一、昔から「浦島太郎伝説」があります。うさんしー(隠作根子)の墓が残っており、字内外からの拝みも多くあり、テレビで全国にも紹介されました。

2014年からは「うさんしー伝説」と「綱曳き」とを融合させた新しい形の伝統芸能文化として今後の継承へも取り組んでいます。



(令和6年撮影)



築47年の兼本ハイツ自治会集会所が新しく生まれ変わります

長年にわたり地域の皆さんに親しまれてきた兼本ハイツ自治会集会所が、このたび新しく建て替えられることになりました。

現在の集会所は、建設から47年が経過し、天井の剥がれや壁のひび割れ、床のきしみ、雨漏り、アルミ戸の歪みなど、施設全体の老朽化が著しく進んでいます。

地域の行事や集会などに活用されてきた場所ですが、近年では安全面や使い勝手に支障をきたし、地域活動に影響を及ぼすようになっていました。そこで兼本ハイツ自治会では、地域住民が安心して集い、交流や情報共有ができる環境を整えるため、新しい集会所の建設事業に取り組むことを決定しました。

事業の概要

- 【事業名称】 兼本ハイツ自治会集会所
- 【工事主体】 兼本ハイツ自治会
- 【構造】 鉄筋コンクリート造(平屋建て)
- 【規模】 延べ床面積132.84㎡(40坪)
ホール、玄関ホール、トイレ、湯沸かし室など
- 【工期】 着工予定:令和7年6月2日/完成予定:令和8年1月27日
- 【事業費】 工事費50,010,800円 設計管理費7,392,000円
登記費用283,000円 合計57,685,800円
- 【資金計画】 自己資金18,182,800円 コミュニティ助成金20,000,000円
町助成金19,503,000円 合計57,685,800円

問 兼本ハイツ自治会 ☎889-6661



喜屋武自治会かじまる会で「ブクブクー茶」を体験

問 喜屋武自治会 ☎889-6603

6月12日、喜屋武公民館にて、「かじまる会」の定例会が行われ、沖縄伝統ブクブクー茶保存会を講師に招いて、貴重な文化体験が行われました。この日、参加者の皆さんは餅を身にまとい、沖縄の伝統的な雰囲気の中でブクブクー茶の披露と試飲に参加しました。

沖縄の縁起茶「ブクブクー茶」

ブクブクー茶は戦前の那覇(東町、西町、泉崎、若狭)などを中心に親しまれていた縁起の良いお茶です。硬水で煮出した「煎り米湯」とさんぴん茶を木鉢(ブクブクーザラ)に入れて、茶せんで空気を含ませながら泡立てます。たっぷりの泡を盛った茶碗に、茶湯を注いでいただくと、さっぱりとした香ばしさが広がります。

作法にきまりはなく、自由楽しめる庶民のお茶として親しまれてきました。

